

テーマ「紀州徳川のレガシーあれこれ」

○話のもと

令和5年1月28日@明治大学駿河台キャンパス・アカデミーホール

和歌山県&明治大学共催シンポジウム：「紀州徳川」400年記念

「紀州徳川家とその時代」

(総合司会)須磨佳津江氏(フリーアナウンサー)

*第1部：読売日響楽団員による弦楽四重奏演奏、「南葵音楽文庫」

紹介…第16代当主頼貞^{ヨシサダ}公の集書。我国の西洋音楽

黎明期における貴重な音楽資料コレクションで、現在は

読売日本交響楽団が所有、和歌山県が寄託を受け保存・

研究しており、県立図書館で閲覧可能。

*第2部：基調講演「日本史と紀州徳川家」井沢元彦氏(歴史家)

*第3部：パネルディスカッション(コーディネーター)清岡央氏(読売新聞文化部記者)

(パネリスト) 井沢元彦氏、徳川宜子氏(建築家、紀州徳川家第19代当主)

山下茂(明治大学名誉教授、元和歌山県副知事、スローライフ会員)

[注] 紀州徳川…家康没後の元和5(1619)年、10男・頼宣公が2代将軍・秀忠により駿河他から和歌山に転封され、初代の徳川家紀州藩主(石高は55万5千石)となる。「御三家」の一つとされ、8代・吉宗(同血筋の将軍が続く)、14代・家茂の2将軍を出す(御三家のうち唯一)などしつづ幕末まで約250年続く。

徳川宜子様のパネル…頼宣公による1.紀州事情の事前調査と地元対策、2.都市計画、3.「父母状」、さらに幕末から明治期の紀州徳川家の人々あれこれ。

*過去にこのシボシウムで取り上げた偉人たち 8 人…南方熊楠、陸奥宗光、濱口梧陵、空海、華岡青洲、松下幸之助、和田勇、岡潔。今回は「400 年」記念で徳川家を取り上げた。

以下、山下プレゼン情報

○旧・日光田母沢(タモザリ)御用邸 (@日光市本町 8-27)

敷地：約 3 万 m²、建物：約 4,500 m²、木造一部 2 ～ 3 階建て

- ・江戸末期には現在の迎賓館の敷地に所在➡維新後、新政府に。
- ・明治 6 年 5 月江戸城炎上➡仮皇居に (21 年末まで) ➡30 年代、新・東宮御所を建設するため、主要部分を日光に移築し御用邸に。
- ・昭和 20 年、大蔵省所管になり、日光国立公園 (株) が借り受けて宿泊・研修など一般利用➡平成 8 年：栃木県が取得➡一般公開

☆写真 1：「旧日光田母沢御用邸」本館(庭園からみた主要部分)



(出典) 公財・栃木県民公園福祉協会 HP

☆写真2：「御座所」（3階建て部分の1階）（出典）同上



[TV 放映] 1. テレビ玉「U字工事の旅！発見」(R2.11.6.)など

2. BS153「建築遺産#221・旧日光田母沢御用邸」(H28.1.1.)など

○地方巧者(ジカクウシヤ)：井沢弥惣兵衛＋大畑才蔵

★井沢ヤツベエ・見沼田んぼ＋見沼代用水＋通船堀（江戸との米&物

資交換）など多くのプロジェクトを担当、「紀州流」で大きな実績。

関東では、郡代の伊奈家が将軍・家光公の命を受け、関東流で治水・利水事業を実施＝今の見沼田圃の区域は遊水池機能も持つ溜め池に（それ以前は沼地も多かった）なり、下流に用水を供給。

➡吉宗公が米の生産増のために再開発を構想、多くの地方巧者の

うちから**井沢**を紀州から召す。1722年、69歳で幕臣となる。

➡**紀州流**で計画&事業実施＝見沼地区でも着工後**半年で竣工**

＝60^キも離れた利根川本流から取水、**見沼**区域を**干拓**して、東と西の縁に沿って**用水路**を建設、間の最低部に**排水機能を担う川**（＝芝川）を整備して**約1200町歩（12km²）の新田**を造成 ＋ 加えて東・西の2用水路と中央の芝川を結ぶ**通船堀**（下記 p. 6～）を整備し、江戸との間を往復する**舟運**システムを整備⇒74歳で辞去⇒76歳で没。

【参照】別紙・さいたま市立浦和博物館パンフレット（抜粋）

★「地方巧者」の**大畑才蔵**・・・井沢と協働して「小田井堰」&用水路（延長28キ。河川の上に通水橋「龍之渡井」あり[タツト仁=登録有形文化財。木製で建設➡1919年にレンガと石造りに改修。今も現役の水路]）など整備。『地方(ジカ)の間書き』で農学&農業土木学などを普及。

【参考】徳仁親王殿下『水運史から世界の水へ』（H31・NHK）第6章。

また、同書収録“Keynote Lecture”@UN on 18 Nov. 2015 in NY(➡

その英語原文が(9)～(12)頁)には **Odai** や **Minuma** さらに **Kishu**

Method、全国へ**紀州から知識&技術移転➡世界化**へ…とお話あり。

[TV] テレ玉「彩の国百科」（見沼田んぼ編。R3.3.21.ほか）、

BS222「未来に残したい日本の橋 #7」(R4.5.4.ほか)

☆写真3：東縁の用水路（南＝写真の上方に流れる）



☆写真4：田んぼと用水路東縁沿いの斜面林（西から東を見る）



☆写真5：中央の排水路となる芝川（北＝写真上が上流）



○「通船堀」と舟運システム

★**通船堀**=見沼地区の最下流部で最も3水路間の距離が短いところに「通船堀」を構築し、江戸等との間での水(舟)運システムを整えた。堀の全長は東西に約700m（JR武蔵野線・東浦和駅から南へ徒歩数分）。3水路間の高低差（東&西縁の用水路と中央の芝川との間で各々約3m）に対処するため、東&西2組の水位調節用・木製の**閘門**（英語では pound lock）を設け、船が上・下流に安全に遡りうる仕組みとした。江戸等との間で米や野菜と肥料(金肥=人間のし尿ほか)など各種物資の移出入が可能になった。

☆写真6：通船堀の水路（西の端近く）の現状



☆写真7：復元された閘門（2水門の間＋両外側に船溜りあり）



☆写真8：閘門の操作(実演イベントの様子)(出典)さいたま市博物館



☆英国でも水運のためにテムズ川水系の閘門などが見られる。

【参考】徳仁親王殿下・H31 上掲書・第6章&『テムズとともに』(H5・
学習院教養新書7 ➡ 令和5年4月・紀伊国屋書店から新装復刊)
の口絵写真と本文 pp. 149-191.

☆写真9：カレドニアン運河(1822年竣工)の閘門群（ネス湖上流）

（出典）‘Caledonian Canal’ in “Scottish Canals” HP



[TV] D061「世界遺産…全長 240 キロ…仏国ミディ運河」(R3.2.9.)、

BS151「Deep Planet イングランド編・グランドユニオン運河」(R4.4.20.)、

D021「小さなミチュア鉄道の大冒険」(R4.12.8.～5.2.16.まで 10 回放送)

○ 「徳川期紀州藩」域内の人々と資産あれこれ

★武家の女性・川合小梅・・1804 生～89 没(86 歳)。『小梅日記』(1～3・東洋文庫)で社会・政治動向や生活を活写。祖父&父&夫は儒者+母は本居大平の弟子➡祖父に漢学+母に和歌、画師に絵を学ぶ。明治16年2月8日(旧元旦)に徳川茂承様から長寿80歳のお祝いを受ける。

【参考】 『日記』1(1974年刊)の「解説」(村田静子)、小梅日記を楽

しむ会『小梅さんの日記』(2012年刊)、S.パートナー(米国デューク大教授)

「紀州の夜明け」in 瀧井一博 ed『明治史講義』(ちくま新書・2022年)

★**御城番屋敷** 松阪市に現存、国指定重要文化財。松坂御城番の武士たちの宿舎で江戸末期に建設。彼らの子孫が今も居住 or 賃貸。

☆写真 10：御城番屋敷(ゴジョウハンヤシキ)



(出典)松阪市 HP

[TV] BS141「三宅裕司のふるさと探訪:松阪」(R3.6.17.)、BS101

「Journeys in Japan 松阪：豪商と文化を育んだ城下町」(R4.5.1.)

★**三井高利**1622年生～94年没。江戸で「越後屋」経営(→現・三越)→両替商も(→三井銀行に)。[TV] 同上 BS101 前半👉+後半👉、D021「偉人の年収 How Much? 商人 三井高利」(R5.7.10.)

★「古道」の**本居宣長**先生：1730生～1801没。87年『(秘本)玉くしげ』を治貞公に答申し治道につき献言➡92年・治宝公に召され紀州藩に出仕➡若山に出講(94年、**竈山陵参拝**)➡養子**大平**を若山派遣。

*『古事記伝』1798年・69歳で全巻完成。十八之卷のうち**今の和歌山関係**部分・・・「東征」は長兄「五瀬命」&末弟「伊弉比」(の

ちの神武帝)ら4兄弟の事績であって、**男水門(オノミナト)**で崩御し**竈山(カマヤマ)**に埋葬されるまでは**五瀬命がリーダー**だ！と記述あり。

☆写真 11：竈山の五瀬命陵墓@和歌山市（長澤純一氏撮影）



【参考】
「百街道一步
の道中記」
HP 中「熊野
街道」ほか

★近代～現代には**「憲政の神様」尾崎弴堂**。1859 生～1954 年没。今の神奈川県生。父が度会県庁の幹部となり少年期に居た**旧・紀州藩城**から衆議に。明治 23(1890)年～昭和 27(1952)年、25 回連続当選。明治 36 年～10 年間、東京市長も兼職。**衆議 63 年**→**95 歳で永眠**。

◎まとめ：紀州藩の**教育文化**と**長寿&現役**の皆さん

***頼宣公**が『父母状』(1660 年)を頒布するなど庶民教育に注力

*「折衷派」儒学+実学(明律、医学、土木、物理、農学、本草学など)+蘭学+漢訳洋書+心学など+そして「国学」重視

➡ **活動的で創造的な人材が「長寿&現役」!**

[TV] D011 「あさいチ」の中で「なぜ人気!? 和歌山」(R4.11.17.)

◎補講 1 ネス湖と閨門群@スコットランド + 山科疎水@京都

[TV] BS103「神秘のヨーロッパ 絶景紀行:水辺の街…」(R4.9.8.)+「スコットランド・ハイランド 横断紀行」(R3.6.5.ほか)+BS11「京都浪漫…秋の山科疎水をゆく」(R4.11.7.)

◎補講 2 明治大学キャンパス所在地は何故「駿河台」と呼ばれるのか?

*家康公没(1616・元和 2 年)後、駿府から旗本たちが江戸に戻る➡神田山を削った台地を屋敷地とする➡「駿河台」に。例：大久保彦左衛門=明治大学の明大通り対面に石碑あり。

*室鳩巢(朱子学者・吉宗時代の享保 10 年 [1725] ~西の丸奥儒者@吉宗世子・家重 [のちに 9 代将軍] 西の丸在住)。『駿台雑話』(明大裏手あたりに邸宅。享保 19 年没=77 歳)➡岩波文庫(昭和 11 年)。1.仁、2.義、3.礼、4.智、5.信の 5 巻構成で、「道德の沙汰を、世上の言葉で…手近に述べた」と自己評価。

*幕末の外国奉行・勘定奉行・江戸町奉行：小栗上野介忠順(タマサ)の生まれた屋敷も駿河台 (=明大リパティ・タワーの対面・日大病院のすぐ北側の YWCA の場所) にあり。

*尾崎罌堂も子供時代の一時期と M10 年代に繁子夫人ら家族と駿河台に住んだ。

◎補講 3 東京から恩返し! - 「お手伝い普請」と参勤交代

*お手伝い普請と「千石夫」ルール

地方各藩は、江戸の天下普請に「お手伝い」とて、石高に応じて「千石あたり 1 人」動員。

if 石高=55 万 5 千石 → 抛出人数=555 人が各持ち場で「普請」業務を分担実施…。

【参考】平成 9 年頃の和歌山県庁土木部スタッフ=用地担当を除き本庁+出先計 545 人。

お茶の水界限では、仙台藩(伊達家)が神田山を切り崩し、今の JR 御茶ノ水駅沿いの外堀=神田川=を開削、現在の湯島台と駿河台とに分離して、神田川が一部は東に流れる(従前は今の水道橋駅・飯田橋駅間の日本橋川のみで南へ流下)ようにした。

➡ 洪水防止と舟運 ➡ 通称「仙台堀」「伊達堀」となる。

*参勤交代➡地方藩のレガシー : 各藩が参勤交代で踏み固めた幹線道路: 東海道その他

☆紀州藩の参勤交代行列の規模と経路

・規模 行列の規模は大: 幕府から儉約令が出ても、御三家としての体面維持不可欠。

枚方宿での記録あり=巻物・紀州藩 11 代藩主「徳川斉順ヲ公・御帰国御行列之図」1844(天保 15)年作 ➡ 和歌山県立博物館が縮刷版を作成して販売。

その解説によれば、1833(天保 4)年の枚方宿史料では紀州藩の行列 (=藩主&上級家臣 134 人+下級家臣 1188 人+人足 232 人+助郷人足 1680 人=) 計約 3000 人規模>巻物には 1000 人足らずを描写。加賀藩や伊達藩にも図示した巻物などあるらしい。

・経路 天保 15 年のケース: 江戸 (3 月 18 日発) →東海道→大坂→紀州街道→和歌山 (4 月 10 日着) =20 日以上かかっている。

☆和歌山市が大名行列再現@2019~文化庁・補助事業に採択された。